



国際化の時代

今シーズンからフランスとガボンの国籍を持つフレデリック選手がフランス2部のトゥールFCからミッドフィルダーとして完全移籍でFC岐阜に加入し、日本のサッカーにも慣れて後半戦から試合にも出場し活躍しています。

彼はフランスではU-16,17,18,19,21のフランス代表に選ばれており、24才の時にはガボンのA代表に選ばれた選手です。

その彼はこの度、母国のガボン代表(FIFAランキング88位)に選ばれて10月10日のブルキナファソ代表(61位)と10月15日モロッコ代表(39位)との国際試合に招集されました。FC岐阜所属の選手が1国を代表するチーム選手に選ばれたことも出場したことも初めての名誉なことです。

フランスでの試合のため、残念ながら36節のモンテディオ山形戦は出場できませんでしたが、ブルキナファソ戦は1対0で勝ち、モロッコ戦では、背番号10番で出場し3対2で勝利しました。日本の代表チームのFIFAランキングは現在31位ですから、ガボンが88位と言えども、39位のモロッコに勝ったのは素晴らしいことです。

ガボン代表には世界的に有名なオーバメヤン選手も入っており、フレデリック選手は親友の彼にFC岐阜のマスコットギッフィーぬいぐるみをプレゼントして岐阜での活躍を誓ったそうです。

J2リーグ終盤真っ只中ですが、こうした国を代表する国際試合に出場して活躍出来たことは彼にとって大きな自信と岐阜への感謝に繋がり、チームにとって一層力強い存在になると期待しています。残る終盤戦を北野監督の采配の元で彼やチーム全員の活躍でJ2残留を決めると確信しています。

ところで、ガボンという国はどこにあるのか殆どの方はご存知ないと思いますが、中央アフリカのコンゴの隣で大西洋に面した国と言えば、大体の位置の察しがつくでしょうか？或いはご年配の方々にはアフリカ大陸の中央西海岸からオゴウエ川を船で150km遡った所にあるランバネ

と言う村がある場所と言う思い出す方もいると思います。

この村を一躍有名にしたのは、かのシュバイツァー博士が長年このランバネ村に滞在して現地の人々への治療活動に当たり、1952年より39年間に及び医療奉仕活動が評価され77才でノーベル平和賞を受賞したからでした。

哲学者、音楽家、世界的に有名なパイオルガニストでありながら、30才で医学を志して38才で医学博士を取得して、ガボンに旅立って医療活動に専念し、ヨーロッパで講演や演奏活動で得た資金を全てガボンの医療設備や治療費に当て献身的活動をし続け90才でガボンに骨を埋めた人でした。

今、100才時代と言われて、いかに有意義に過ごすか、長い目線で生きることが求められていますが、106年前に、既にこのような素晴らしいドイツ人が異国の地で中年になってからの志を90才まで生涯をかけて成し遂げたのがこのガボンでした。今更ながら様々な意味を持ったノーベル平和賞であったと感心します。

さて、チームには他にスペインからビクトル選手、ブラジルからミシャエル選手、パホス選手、ニュージーランドからライオン選手、韓国からハム選手、ドイツからヤン選手が在籍しています。多くの日本人と一体化したチームの切磋琢磨の姿を是非応援下さるようお願いいたします。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU



イングランドプレミアリーグ、アーセナルに所属するオーバメヤン選手(右)とギッフィーぬいぐるみを持って記念撮影する(左)フレデリック選手

写真：フレデリック選手提供